

3/6 福井

福井で反対集会

「原発は衰退 早く廃止を」

大島教授(鯖江出身)講演

東京電力福島第1原発事故から11年になるのに合わせ、県内の反原発団体などによる集会「3・11メモリアルアクションー原発のない新しい福井へ」が5日、福井市のフェニックス・プラザで開かれた。大島堅一・龍谷大教授(環境経済学)・鯖江市出身IIが講演し「原子力産業は大きく衰退しており、先送りせず早期

に廃止する必要がある」と訴えた。

原発反対県民会議などでつくる実行委が開催し、約120人(主催者発表)が来場した。敦賀、小浜、越前市のサブ会場とオンラインでつないだほか、動画のライブ配信も行われた。大島教授は福島原発事故後の電源構成比率などを示し「原発から撤退する事業者も相次いでいる」と指摘。

「放射性廃棄物の処理や安全対策の費用が増大し高コストになっている。減っていく原発に頼らず、早く再生可能エネルギーによる省エネ社会をつくっていくべきだ」と述べた。

集会では「ロシアによるウクライナ侵攻と原発占拠は許されない」とする緊急アピールを採択した。参加者は会場から福井地裁前までデモ行進した。(前田卓)



講演で「早期に原発を廃止すべき」と語る大島教授。5日、福井市のフェニックス・プラザ